

北海道教育委員会教育長 様

北海道岩見沢東高等学校長 坪川 泰嗣

次のとおり令和4年度の学校評価について報告します。

1 本年度の重点目標

- | |
|---|
| (1) 生徒一人一人の学力や特性の把握に基づき、学習指導の個別化を図り、その能力の開発に努める。
(2) 探究的な学習や主体的・対話的で深い学びを通じ、多様な他者と関わりながら学ぶ力を育成する。
(3) 継続して登校できるよう、基本的な生活習慣の育成に努める。
(4) 生命の大切さを意識させるとともに、日常の活動を通じて自他を尊重する態度の育成に努める。
(5) 地域の職業人や就職支援に携わる人など、外部の人と関わる機会を通してコミュニケーション力や社会性を高める。
(6) コロナ禍にあって求められる生活や行動のスタイルを身に付けさせ、感染の未然防止を図る。 |
|---|

2 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の改善方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	○観点別学習状況の評価により、学習の成果を的確に捉え、教師が指導の改善を図るとともに、生徒自身が自らの学習を振り返って次の学習に向かうことができるようにすることが求められる。 ○学力差があるため、個に応じた授業実践とともに、対話による深い学びが求められる。	・生徒一人ひとり向き合い、指導していくことにこれからも継続していただきたい。 ・学びの意欲を失わず継続して通学できていることからご尽力の深さが窺える。 ・社会性の育成や物の見方考え方に気付かせていただきたい。
改善方策	○今後においても基礎・基本の学力の定着とともに、知識・技能を活用した課題解決能力を育む指導方法の工夫・改善に努める。 ○情報機器の活用を図り、自律的な学習に取り組めるよう支援する。 ○評価の観点を加味したペーパーテストの作成や授業での活動を観点別にバランス良く評価し、生徒のやる気を起こさせる。	
生徒指導	○学業指導会議、成績会議等とおして情報の共有化と生徒理解を深め、基本的な生活習慣や社会に認められる生活態度の育成を図った。 ○学校祭や体育大会を実現するなど豊かな心の育成に努めた。 ○年3回の個人面談週間やSCの活用を図り、悩みや不安を持つ生徒に対して支援に努めるとともにいじめの未然防止に努めた。	・社会人としてのスキルが身に付くよう指導願う。 ・コロナが落ち着き、生徒の笑顔が多く見られるように感じた。心の面でのサポートが大切である。 ・在学中に多くの仲間をつくっていただきたい。交流することは社会の中で必要で大切である。
改善方策	○非行事故（特別指導）等は皆無。落ち着きがあり、穏やかな学校生活をおくることができた。今後は自尊心を高めるなど、積極的な生徒指導を心がける。	
進路指導	○個人面談等を通して進路意識の向上を図ることができた。 ○合同企業説明会や外部講師による進路体験学習等を実施し、生徒の進路意識の変化や学習意欲を支援することができた。	・今後も個々の能力が発揮できるような体制づくりを願う。 ・様々な能力が求められている。外部講師の活用は大切。就職後のギャップに苦しまないような指導を願う。
改善方策	○入学時からの進路目標設定に向けた取組（職業調べ等）などキャリア教育の充実を図る。 ○進路講話、企業見学や合同説明会など生徒の進路意識の高揚を図る取組に積極的に参加させるとともに、キャリアを高めていくための振り返りシート（キャリア・パスポートなど）を活用した。	
その他改善方策	○新設校魅力化検討委員会を設置し、新しい定時制づくりに着手している。 ○情報機器を活用した授業等の充実を図るため研修への参加を積極的に促す。 ○生徒の学習保障や自律的な学習の支援に努める。	・より開かれた定時制づくりに期待しています。個々のライフスタイルによる学び方が求められている。先駆者になってほしい。 ・新聞、読書等の知識も人生に大切。
公表方法	・Webページへの掲載 ・PTA、学校評議員会等での発表・説明	

3 添付資料
学校評価アンケート（生徒・保護者・教員）